

発表論文「住要求の変化に対応するための団地の改築・用途変更に関する研究」

発表者 増岡裕士

講評者 1. 田中眞太郎

どのような研究か

戦後の住宅不足の問題を解決するために建設された団地であるが、画一的なデザイン、狭隘などの問題で1980年代より徐々に人気を失っていった。各地で今もなお多くの団地がこのような問題に直面している。筆者はこのような問題に対し、建て替えではなく増改築や用途変換によるものに着目し、実際に行われている手法を調査・講評している。さらに、自らも改築案を提案している。

研究により得られたこと

岩成団地では改築だけでなくソフト面での対応が行われている。また、段階的な改築計画により効率的に再生を実行することができる。平面プランも画一的になるのをさけ19種類ものプランが混在されている。一方、エレベーターの設置や階段の急傾斜の改善など動線や共有空間に対する改善はほとんど行われていない、個々の住戸は閉ざされた印象が強い、外観は画一的なままであるといった問題も残されたままである。

講評

団地再生に対し増改築に着目し、実際のプランを時間を追って比べ、時代背景とともに考察している点はおもしろい。ただ、提案した改築案は現存の団地の枠内におさまりすぎていて新鮮さや斬新さに欠けた。建物内での計画案で終わっていたが、パブリック・コモンのスペースも含め建物間の空間をもっと活用したり、溢れ出すような思い切った計画にしても面白かったのではないだろうか。また、高蔵寺ニュータウンという場所に限定した研究だけに、この場所の特性にからめてもっと深く考察してもよかったのではないだろうか。時代背景やソフト面（ペット可など）は考察されていたが、建築（棟の並びや向きに関連したもの）に関しては少なかったのではないだろうか。今後の団地再生問題に対して、単純に建て替えというのではなく、いかに空間的に魅力的で経済的にうまく活用するかについて引き続き考え続けてほしいです。

（評者 / 田中眞太郎）